

特集 卒業後の自分に思いをはせて

- 担任から卒業生へ
- 栄えある受賞者／留学生帰国
- 学生表彰／学友会新役員紹介
- ようこそ！公開授業へ
- FD・SD研修会の報告
- 川崎エコプロジェクト／ソフトボール大会優勝／
教員受賞／短歌受賞
- インフォメーション

ふきん



特集 卒業後の自分に思いをはせて

－卒業する学生と本学教員との対談－

卒業を間近に控えた学生は、新しい世界に進む希望や期待と未知の社会に向かう不安の中で学生生活を過ごしています。今回は学生が目指す仕事の経験を持つ本学教員と、仕事の夢や不安について語り合いました。



重松(司会) 皆様、お忙しい中、ありがとうございます。本日は、4月に社会に巣立つ学生の皆さんの期待や不安、目指す職種の先輩である先生方が仕事をする上で経験した喜びや悩みなどについて、ぜひ率直な意見を聞かせていただければと考えています。

テーマ①

仕事への期待について

谷(看護科学生) 実習中はうまくできないことが多く、勉強ばかりでした。仕事となると、常に勉強しなければならないという不安も大きいですが、自分がどれだけ成長できるかを考えると楽しみでもあります。

平原(看護科教員) 看護師はずっと成長できる仕事だと思います。最初はできないのが当たり前で、むしろできる人のほうが少ないです。勉強をしなければと思っているようですが、就職して患者さんと接する中で、勉強をしなければから患者さんのことを理解したいという気持ちにシフトしていくことが、成長することだと思います。仕事をしていて「本当にこれでもいいのか、だめではないか」と不安になることもありますが、1年経つと気づかないうちに驚くほど成長しています。3年間で我慢のしどころでしょうか。まずは小さな目標として、1カ月単位でやっていけばよいと思います。

橋本(臨床検査科学生) 楽しみにしているのは、実習でお世話になり、目標としている技師さんと一緒に働けることです。就職したら早く仕事に慣れて、一人前の臨床検査技師になれるよう、いろいろな経験を積みたいと考えています。

榊原(臨床検査科教員) 入ってすぐは、なかなか一人で業務をすることはできないと思います。先輩などに教えてもらいながらでなければ仕事ができないこともあります。しかし、ただ目の前の仕事をこなすだけでなく、それ以上のものをドクターや患者さんに返せたときにやりがいを感じました。そのような経験がたまっていく中で、自分の成長が実感できるのではないかと思います。毎日の仕事を頑張り、少しずつたまってきたものが、1年後に「去年の私よりも成長している」というふうに思えたらいいのではないかと考えます。

田口(放射線技術科学生) 実習では患者さんの誘導などを行いました。実際の診療放射線技師としての仕事はほとんどできませんでした。現場では機械に触れることが少なかったため、どこまで自分ができるのか、自分が行える仕事の範囲がどこまで広がるかが楽しみです。



田口 麻美さんと荒尾 圭子先生

荒尾(放射線技術科教員) 人への照射は、免許を持っていないとできないため、学生には機械の操作をさせていませ

ん。機械を扱うのは病院のスタッフになってからです。働きながら覚えることが増えていくので日々勉強だと思います。続けることで仕事の幅も広がります。

網城 (医療介護福祉科学生) 私は介護老人保健施設で、介護福祉士の方と連携して実習を行いました。しかし、就職先は病院のため、看護師など他職種の方との連携が多いと思います。その中で、うまくかわっていきけるか不安もありますが、医療介護福祉士としてどのように成長できるかを楽しみにしています。

居村 (医療介護福祉科教員) 私は介護老人保健施設のデイケアで働いていました。学生も実習の振り返りでよく言っているように、利用者さんの笑顔を見たときや、「ありがとう」などの感謝の言葉をいただいたときにやりがいを感じます。老健施設でもリハビリテーションのチームや看護師など、他職種とのつながりも大事でした。リハビリテーションを通して利用者さんが回復していく姿を間近で見ることができたのはうれしかったです。

安田 (医療保育科学生) 保育実習は1回が10日ずつの短い期間なので、子どもの成長を実感することはできませんでした。これからは1年間を通じて一緒に生活していくことで、子どもの成長を身近に感じられることを楽しみにしています。

入江 (医療保育科教員) 保育の世界で接する子どもは0歳から6歳までで、人生で一番発達する時期に当たります。気づいたら寝返りがうていたり、立てるようになっていたり、話せるようになっていたり、本当に日々子どもは変化していきます。その成長に寄り添うことができる素晴らしい仕事だと思いますので、子どもの育ちを楽しみながら自分も成長していったらと思います。

テーマ②

仕事への不安について

安田 実習では3歳児以上の年齢の子どもしか担当しておらず、0～2歳児とはかかわったことがありません。おむつ交換や食事の配膳などが不安です。

入江 たとえ実習で経験していたとしても、おむつを替えるときにはそれぞれの子どもの「くせ」や「やり方」があります。これまでにその理論や演習は積み重ねているはずですが、それをもとに、一人ひとりにあったやり方を一から学ぶという気持ちでやれば乗り越えられると思います。現場に行けば、おむつ替えの得意な先輩がいますから、そういう人を見て学び、繰り返していけば身につけられると思うので、ぜひチャレンジしてください。

網城 私が今不安なのは、他職種の中で介護福祉士としての専門性を生かしていけるのかということです。

居村 看護師の専門性は「体調を良くしよう」ですね。理学療法士は「少しでも歩けるように」という面を見ていると思います。介護福祉士の専門性は「思いを汲み取ってかわる」ことだと思います。老健施設だと在宅復帰を目指している方が大勢おられるので、その前に自宅などに伺って生活環境の確認もします。その方の身体の状態だけでなく、昔されていたことや、好きなことなどを知りながらケアすることが大切ではないかと考えています。



網城 真由さんと居村 貴子先生

田口 社会人になると責任が伴うため、自分が撮った画像が医師に提供するのに適しているか、再撮影が必要かなどの判断も自分でしなければならないことが不安です。また、初めて機械装置を操作するため、本当に使えるのかも不安に感じています。

荒尾 初めは自分ひとりで判断する必要はありません。先輩技師が必ずいるので、相談しながら学んでください。例えば、骨折線が見えない場合は追加撮影が必要ですが、その場合には主治医に追加撮影の許可をとったり、また撮り方を変えて骨折線が見えるようにするなど、経験が自信につながると思います。最初から全ての判断はできないので、一つずつ勉強してください。実際には教科書通りの画像が出るわけではなく、それぞれの身体の状態によって画像は変わってきますので、最初はできなくても当たり前ですよ。

橋本 現場では学生時代には学べなかった専門的な内容が増えてくるので、うまく対応していけるのか、不安があります。



榊原 佳奈枝先生と橋本 彩香さん

榎原 短期大学では正常な人のデータや症例について教えている一方で、実際の病気は多種多様です。そのすべてを短期大学では教えることができず、臨床現場に出て初めて経験する症例がたくさんあるため、不安を感じることも多いと思います。だからこそ日常に流されないことが大事です。自分だけで判断すると危険なこともあるので、先輩技師や周りの方に聞く勇気を持つことが大切だと思います。いろいろな症例に当たることが一番の成長になりますよ。

谷 患者さんの入院期間が短く、病棟にいる時間も短い中で、看護師としてやらないといけないこと、例えば検査前の処置介助や日々のバイタルサインの異常の早期発見などをちゃんとできるか、現場の速さについていけるのかが不安です。

平原 スピードの速さにとらわれすぎても、患者さんの思いや体調はそんなに簡単には良くならない場合もあります。実際には一つひとつの仕事を丁寧に間違いなくすることが大事だと思います。例えば、間違えて食事を配ってしまい検査が延期になると、1日入院期間が長くなってしまう場合があります。それが患者さんの負担になってしまいます。また、長くかかったほうが患者さんのことをよく分かる、というわけでもありません。仕事のスピードには現場にいれば必ずついていけるようになります。まずは一つひとつ確実に、自分がすべきことをきっちりとこなすことができれば大丈夫ですよ。

平原 瑠美子先生と谷 京子さん



テーマ③

将来なりたい職業像について

重松 最後にもう一つ。どのような社会人・職業人になりたいかについて、皆さんが今思っていることをお話してください。先生方はそれに対してエールを送っていただきたいと思います。

田口 女性の強みを生かして、まずはマンモグラフィの認定技師を目指し、多くの女性にかかわれたらと思います。さらに、診療放射線技師には様々な部門があるので、様々な部門で活躍できるようになりたいです。

荒尾 乳がんは芸能人の闘病のニュースなどもあり、現在注目が高まっている病気ですし、患者さんも増えています。女性技師として、まずはマンモグラフィの認定技師資格を取ってほしいです。それには知識だけでなく読影力も必要になるので頑張ってもらいたい。ほかにも、一般撮影・CT・MRIと部門が変われば仕事も変わってくるため、それぞれ認定試験があります。どの部門も仕事を覚えるのは大変ですが、頑張ってもらえればと思います。

橋本 私は様々な人とのコミュニケーションを大事にして、患者さんだけでなく誰からも愛され、仕事も任せられるような一人前の臨床検査技師になりたいです。

榎原 まずは毎朝の元気な挨拶が第一歩です。誰からも信頼されるためにも、職場についたら検査室だけでなく、そこで働く皆さんにご挨拶するのが大事だと思います。そこからコミュニケーションが生まれます。仕事の話だけでなく、雑談などを含めたいろいろな職種の人との会話から、のちのち仕事の場面に繋がることがたくさん出てきます。

谷 病棟実習では不安いっぱい、泣きながら参加したこともありました。そのときに指導者の方から「あなたが就職したときのためになるよう、実りある実習をした」と考えているから、一緒に頑張ろう」と言ってもらいました。その言葉を忘れずに半年間の実習を頑張ることができました。これからはそんな言葉を学生に掛けられるような余裕を持てるようになりたいです。

平原 私が教員になった理由もそこにあります。看護師は忙しく、学生指導がきつくなることもあります。しかし、看護師はそもそも困っている人の手助けをする仕事です。これは学生に対しても同じで、学生が困っていたら声を掛けるのはとても大事ですし、人にもものを教えるからこそ人は成長するのだと思います。学生に指導することは、一方で看護師としてのモチベーションを上げることになり、それは患者さんへの看護につながると思います。時間は掛かりますが、余裕がないと人には優しくできません。いろいろな仕事を一つずつ身につけ、良い看護師となることで良い指導もできるようになります。その余裕ができるまでは我慢も必要だと思います。

網城 利用者さんの思いを大切にして、その人らしい介護ができる介護福祉士になりたいです。

居村 その人らしい介護を提供するために、よく観察してその人を知っていく必要があります。利用者さんの立場に立ち、思いをくみ取りながら、網城さんの良さを生かして頑張ってください。

座談会参加者



看護科

谷 京子

出身

姫路市立飾磨高等学校
(兵庫県)

就職先

川崎医科大学附属病院



臨床検査科

橋本 彩香

出身

広島県立賀茂高等学校
(広島県)

就職先

川崎医科大学附属病院



放射線技術科

田口 麻美

出身

広島県立福山誠之館高等学校
(広島県)

就職先

JA吉田総合病院



医療介護福祉科

網城 真由

出身

広島県立尾道東高等学校
(広島県)

就職先

川崎医科大学総合医療センター



医療保育科

安田 梨花子

出身

岡山県立倉敷商業高等学校
(岡山県)

就職先

倉敷市公立保育園

安田 私は常に笑顔で、得意なピアノやゼミで学んだわらべ歌を取り入れながら、子どもたちを楽しませることができる保育士になりたいです。

安田 梨花子さんと入江 慶太先生



入江 小さい子どもにとって自分の気持ちを言葉で表現するのは難しいことです。気をつけないと、指導する際に力で抑えるような、言って聞かせる・ひっぱって保育をしてしまう恐れもあります。安田さんが言ったように、子どもの楽しみを子どもの目線で考え、子どもの気持ちから保育を組み立てるような

保育をしてほしいと思います。子どもだけでなく、保護者や同僚にも信頼される保育士になれるよう、挨拶や目配り・気配り・心配りといったことを大事にしてください。笑顔になるために必要なら、いつでも大学にも遊びに来てください。

重松 皆さんは各職種の専門性を学ぶとともに、その先にある患者さんや利用者さん、子どもたちとのつながりを実習で感じていることがよく分かりました。きっと多くの卒業生が皆さんと同じような期待や不安を感じ、また実習を振り返っていると思います。この特集を通して、学生には社会に出ることに向けた希望を持って頑張ってもらいたいと思います。また、患者さんや利用者さんが、この特集を読んでくださることもあるかもしれません。そうした方々との出会いとつながりがあって今があり、これからもお互いがつながり合いながら医療・介護・保育などの現場で皆さんが輝くことを願っています。本日はどうもありがとうございました。



2017 March Message

担任から卒業生へ



看護科 3年担任
榎本 朋子

ご卒業おめでとうございます。この3年間、悔いの残らない時間を過ごせたでしょうか。臨地実習や看護の学びは、皆さんが考えていたよりもずっと複雑だったのではないのでしょうか。苦しいことや辛いことも多かったと思います。でも、一つひとつ乗り越えて、今日の日を迎えられたことを心よりうれしく思っています。皆さんは、4月から新しい場所で活躍されますが、看護や医療について考えたり悩んだりすることもあると思います。そんなときに学生時代に学んだことが一つでも役に立てば幸いです。この3年間で負けない気持ちと頑張る力を身につけたことと思います。今後も、多くの人たちとの出会いの中で、自分を大切に、また3年間を共に過ごした仲間と支え合いながら、成長して行ってほしいと思います。今後の皆さんの活躍を心から願っています。



看護科 3年担任
日下 知子

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。私にとっては、一人ひとりが懸命に取り組む姿を見てきたBクラスの人たちとの思い出は、特に深いものがあります。3年生の母性看護学実習で覚えた知識をすぐ忘れる人、就活で志望動機がなかなかまとまらない人、国家試験受験直前まで思うように得点が伸びず不安でいっぱいになった人…、その誰もが、臨地実習では患者さんのために何とかしたいと看護を行い、患者さんから忘れることのできない感謝の言葉をいただきました。一人ひとりの個性が輝いていました。その個性は、周りの人の支えと人との繋がりがあってこそ伸びてきたものです。どうぞ、その繊細で豊かな個性を少しずつ逞しく育てていてもらいたいと思います。「繊維のまちで日本遺産を目ざす倉敷」からいつも応援しています。



臨床検査科 3年担任
黒川 幸徳

ご卒業を迎えられる学生の皆さん、おめでとうございます。新しい環境で新たな知識を身につけることは、苦労の連続であったことと思いますが、仲間がいたから乗り越えられたのだと思います。この仲間との出会いは、一生の仲間となる人たちとの運命の巡り合わせであったでしょう。

今は当たり前のように身についた多くの知識も、入学当時は何も知らない1年生でした。しかし、卒業を迎える今では、プロフェッショナルとして羽ばたくまでに成長されています。私の部屋からは、岡山空港を飛び立った直後のジェット機が見えます。8:30 発の沖縄便は、吉備高原の稜線を斜め30度に上昇し、ぐんぐん高度を上げて上空へと舞い上がって行きます。皆さんの成長ぶりと重なるところを感じるのには私だけでしょうか。川崎医療短期大学の卒業生であることに誇りを持ち、大きく羽ばたいてください。



放射線技術科 3年担任
原内 一

ご卒業おめでとうございます。これからの人生において、夢を叶えるために絶対欠かせないことが何であるか、分かりますか？ それは、当たり前すぎる答えですが、夢を諦めないことです。しかし、夢を追い続けることは、口では簡単に言えても、実際には非常に難しいことです。

人生において、一を聞いて十を知ってほしいと願っても、十を伝えても一しか理解してくれない人のほうが多いものです。一言ええ十言ええ返されることすらあります。期待に対して、「10の3乗」のギャップがあるのが人生です。そう思って生きていけば、辛いことも挫けずに受け止めることができます。また、少しでも良いことに出会えば、幸せな気分になれます。これらのことが分かっているかどうかで、夢を諦めずに進むかどうかが変わるでしょう。これからも頑張ってください。遠くから応援しています。そして、今までありがとう。



医療介護福祉科 2年担任
辻 真美

ご卒業おめでとうございます。2年間を通して、見違えるように成長した一人ひとりの姿はとても誇らしげで、見ていて頼もしくもあり、うれしい気持ちでいっぱいです。この2年間、どれだけ勉強や実習に切磋琢磨してきたことでしょう。努力を重ねた今の自分を、まずは褒めてあげてください。同時に、どのようなときにも支えてくださり、温かいエールを送ってくださった周りの方々への感謝の気持ちを忘れないでください。

学び舎を巣立つ34人は、4月から介護福祉士としての歩みを始めることとなります。専門職として学ぶべきことは、実践現場の中に、そして、利用者様の傍らにあります。どうか、使命感を持ってそこに立ち、人が人を介護するとは何かを問い続け、人間的にも成長してください。介護の新しい時代を切り開くのは皆さんです。これからのご活躍を、いつまでもお祈りしています。



医療保育科 3年担任
岡田 恵子

10期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。子どもの専門家になるため多くを学んできた皆さん、4月からはかわいい子どもたちの先生です。これからは保育者として、大切な子どもや保護者の方々のために働き、社会に貢献することが皆さんの使命であり、人間としてもさらに成長する切符です。

人生は転んだり起き上がったりがしながら、一步一步進んでいくものです。どんなときも自分を嫌いにならず、「七転び八起き」の精神で、転んでも起き上がり、前を向いて歩いていってください。苦悩と戦うこともあるでしょうが、「冬来たりなば春遠からじ」と言われるように、模索しながらでも、希望を持って頑張ってください。いつまでも子どもたちの心に温かい思い出として残るような、子どもたちを心から愛する素敵な先生になられますように。皆さんのご活躍を心からお祈りしています。



医療保育科 3年担任
重松 孝治

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。3年前の4月に本学での勤務を始めた私にとって、皆さんは3年間の成長を通して見守ることができた初めての卒業生です。笑ったり、泣いたり、喜んだり、悩んだり、様々な経験をしてきた皆さんの姿を、今思い浮かべています。皆さんの多くは来年から「先生」と呼ばれ、子どもたちの成長を見守る仕事に就かれます。いつか、母として、子どもの成長を見守る日も来るかもしれません。これまでに身につけた保育、病気、障がいなどに関する知識をもとに、経験を重ね、視野を広げていってください。頑張ってください。これまで支えられる人であった皆さんが、これからは支える人として成長することを期待しています。素敵な「先生」になった皆さんに会える日を心から楽しみにしています。

栄えある 受賞者

平成 28 年度卒業証書・学位記授与式は3月 15 日に挙行政され、「学業成績優秀で、品行がすぐれ、他の学生の模範とするに価する」と認められた学生に『学長賞』と『学科賞』が贈られます。

【学長賞】全卒業生のうち、特に優れた学生であると認められた場合に表彰されます。

【学科賞】各学科から1人が表彰されます。

学長賞



臨床検査科
嶋村 沙耶



放射線技術科
石部 直之

学科賞



看護科
城田 夏奈



臨床検査科
山崎 光



放射線技術科
橋本 二春



医療介護福祉科
石永 萌



医療保育科
橋本 佳苗

留学生帰国

ジャイゼン
再会、日本の皆さん

日本の看護学を学ぶために上海から本学へやって来た2人の留学生が、約3年半の留学期間を無事に終え、帰国の途に就くことになりました。

今後ますますのご活躍をお祈りします。



張 怡
(看護科)



楊 始茗
(看護科)

学生表彰

5回目となる平成28年度学生表彰の表彰式が平成29年1月27日（金）に挙行されました。この表彰は、学業や学外活動などにおいて、他の模範となるような功績を修めた学生や団体を学科や部顧問などが推薦し、表彰するものです。

学科や顧問の先生に祝福される中、新見 明子学生部長の進行で、名木田 恵理子副学長から、5人と5団体に表彰状と記念品が授与されました。個人の部では、難関の第一種放射線取扱主任者試験に合格したことが表彰されました。団体の部では、ボランティア活動などを通して広く社会や地域に貢献したことが評価されました。勉学および社会・地域貢献に励むことは建学の理念に合致し、本学の評判も高めます。受賞した皆様の今後ますますのご活躍を期待しています。



個人の部

学科・学年	氏名	表彰理由
放射線技術科3年	猪又 由衣	第一種放射線取扱主任者試験合格
放射線技術科3年	後藤 優治	第一種放射線取扱主任者試験合格
放射線技術科3年	丸中 絢太	第一種放射線取扱主任者試験合格
放射線技術科3年	山谷 晃平	第一種放射線取扱主任者試験合格
放射線技術科2年	宇山 友二	第一種放射線取扱主任者試験合格

団体の部

団体名	氏名	表彰理由
学友会執行部	代表：足立 菜々美（前委員長） 吉田 佳代前安全パトロール担当	毎月の安全パトロール活動、岡山県警生活安全部と協力した非行防止対策、および学園祭前の本学周囲の清掃活動により、広く地域安全活動に貢献した。
ソフトボール部	代表：下野 真志（部長）	中庄学区の山陽新聞杯ソフトボール大会で、平成26年春季大会の優勝から平成28年秋季大会まで、6季連続優勝を果たし、中庄学区地域の住民との交流を深めた。
Berry Kids	代表：稲澤 日菜（部長）	川崎医科大学附属病院の病児保育室の壁面作成を季節ごとに行い、岡山市の子ども向けイベントや岡大病院小児科病棟でのボランティア活動にも積極的に参加した。
献血ボランティア部 aicoco	代表：門田 佳笑（部長）	日本赤十字社と連携し、中学高校で模擬献血を年間13回実施するなど継続的に啓発活動を行い、川崎学園祭でも献血の重要性を多くの方に伝える活動を行った。
学園祭実行委員	代表：平 真名 （前学園祭実行委員長）	第42回川崎学園祭で、新たに子ども向けイベントを企画するなど、来場者からの評価を上げるとともに、学園内の大学間の協力体制を深めた。

学友会 新役員紹介



学友会委員長
臨床検査科1年
寺本 真理子

皆さん、こんにちは。学友会委員長を務めることになりました寺本 真理子と申します。まだまだ不慣れなことが多く、学生の皆さんや先生方におま迷惑をお掛けすることも多々あると思います。温かく見守っていただけると幸いです。

昨年の学園祭終了後に先輩方から役員を引き継ぎ、46人で学友会を運営しています。引き継いだ当初は、自分たちが先輩のような運営ができるかどうかとても不安でした。しかし、昨年12月のクリスマス会では、様々な課題はあったものの、全員で力を合わせながら一つひとつクリアしていき、無事に成功を収めることができました。

現在は、来年度の学園祭に向けて計画を進めている

ところです。本学の学生だけでなく、川崎学園の学生や教職員、地域の方々、老若男女を問わず楽しめるような企画を提案・実行していきたいと思っています。学友会一同、学生の良き見本となれるように努力していきますので、皆様のご協力をお願いいたします。



ようこそ！公開授業へ

「短大の授業を受けてみよう！」

(医療介護福祉科 三宅 美智子)



医療介護福祉科では、本学の専門的な授業を体験し将来の自分をイメージするヒントにしてもらうために、介護に興味のある高校生や先生を対象に授業を行っています。今回は、「介護現場におけるコミュニケーション ～コミュニケーションスキルとチームケアを見てみよう～」と題して、平成29年1月21日（土）に開催しました。

1 良いコミュニケーションとは

介護者と利用者の想いが通じ合い、元気とやる気がわいてくるようなコミュニケーションです。内容を伝えるだけでなく、信頼関係や、笑顔と元気をつくるための「源」となります。

3 信頼関係や笑顔、意欲につながるコミュニケーションスキル「リフレーミング」

利用者は、生きていく上で困難なこと、受け入れがたい現実を抱えています。そういった事実に対する意味づけを少しだけ変えることで、利用者のモチベーションを高めたり、信頼関係を築いたりすることができます。「リフレーミング」は、視点を変えることによって事実に対する感情を肯定的に変化させるスキルです。このスキルを使うことで、あらゆる出来事には「プラス」の意味があり、ものの見方は決して一つではないということを伝えられます。

5 介護におけるチームのコミュニケーション

介護現場で利用者にも最も身近な専門職は、介護福祉士です。しかし、利用者が望む「自分らしい生活」を実現するためには、医師や看護師、リハビリ職など、異なる専門職がチームを組んで情報共有し、一つの共通の目的や達成すべき目標に向かって連携していくケアが必要です。

チームのメンバーがそれぞれの専門性を発揮していくには、他職種の仕事を理解し、他職種の意見を尊重し、他職種がより良い仕事を行えるように最大限自分の職務を全うしなければなりません。そうすることで、利用者へのサービスの質が向上し、より良いサービスを効果的に提供することができることを伝え、まとめました。

2 コミュニケーションの目的

介護現場でのコミュニケーションの目的は、大きく分けて二つあります。一つ目は何らかの伝達、二つ目はコミュニケーションそのものです。今回は、利用者の情報や希望を細かく分析するため、利用者の抱える課題を探るコミュニケーションについて、「リフレーミング」というコミュニケーションスキルを活用したロールプレイを行いながら解説しました。

4 利用者の話を「聴く」こと

介護福祉士は、「人としての尊厳を守る」ことを大切にします。そのためには、否定をすることなく利用者の話に耳を傾け、共感しながら受容していきます。そうすることで、利用者自身も「尊重され受け入れられている」という安心感を得ることができます。このようなコミュニケーションを繰り返して行くことで、次第に信頼関係を築いていくことができるようになります。



6 卒業生・在学生との交流・感想

授業後には、川崎医療福祉大学へ編入しダブルライセンス（介護福祉士、社会福祉士）を取得して就職した先輩の話も聞かされ、卒業生や教員と交流しました。高校の先生も参加され、卒業生の話に熱心に耳を傾けておられました。アンケートには、「コミュニケーションの大切さや介護福祉士の仕事にすごく興味を持ってました」「コミュニケーションの意味を深く知ることができました。また、介護だけでなくチームのコミュニケーション、協力があることで利用者さんにより良い提供もできることを知りました。」などの感想をいただきました。

平成 28 年度 FD・SD 研修会の報告

本学では、教育上の課題解決に向けた教職員の研修の場として FD・SD 研修会を開催しています。FD (Faculty Development) 研修会は、主に「教員」を対象とする教育力を高めるための取り組みです。また SD (Staff Development) 研修会は、主に「職員」を対象とする組織力を高めるための取り組みです。さらに、FD・SD 研修会では、「教員」と「職員」を統合した「教職員」を対象に、本学の共通課題の解決を目指します。

今年度は、「効果的な学生募集」「授業評価と授業改善」「中退者の減少に向けた取り組み」という本学の3つの課題に向けた研修会を実施しました。教職員が共通の課題を認識し、共に解決に取り組むために、FD・SD 研修会の充実を図りました。

FD・SD 研修会では、「効果的な学生募集」をテーマに、本学の魅力を効果的に高校生、保護者、高校の教員の皆さんに伝えるための基本的なマナーと PR 方法を学びました。企業における営業活動のノウハウを学ぶために、実績のある (株)キャリアプランニングから講師を招き、連続 2 回の研修を実施しました。この 2 回の研修会では、大学の教職員とは違った視点から、

相手を尊重するためのマナーや効果的な学生募集に向けた PR 方法を学ぶことができました。ここでは、アクティブ・ラーニングの手法によって「挨拶の仕方」「名刺交換の意味と方法」「本学の1分間 PR」「正確な情報伝達」などを、教職員が共にアクティブに学び合いました。特に「本学の1分間 PR」の場面では、各学科の魅力と共に伝え合う演習を通して、本学の強みを再発見するとともに、上手な PR 方法を学び合う貴重な体験ができました。効果的な学生募集はもちろん大切ですが、魅力的な教育が普段から展開されているからこそ、そこが PR のポイントになることも再認識しました。

FD 研修会では、そのような普段の教育の向上に向けて「授業評価とそれを活用した授業改善の在り方」をテーマに、8月に研修会を実施しました。また、SD 研修会では、「中退者を減らす仕組み作りと効果的な実践方法」をテーマに研修会を実施しました。

今後も FD・SD 委員会では、本学の教育課題を解決し魅力を高めるとともに、効果的に社会に PR できる資質の向上も目指して、研修会を企画していきます。

日時	テーマ・講師
第1回 FD・SD研修会 平成28年11月9日(水) 16:30~18:00	学生募集のための研修①マナー研修 矢野 純子 (キャリアプランニング)
第2回 FD・SD研修会 平成28年11月18日(金) 16:30~18:00	学生募集のための研修②PRポイント研修 松田 隆之 (キャリアプランニング)
第1回 FD研修会 平成28年8月26日(金) 11:00~11:40	授業評価論—ルーブリックによる授業評価— 中原 朋生 (本学医療保育科教授)
第1回 SD研修会 平成29年2月10日(木) 16:15~17:15	中退者を減らす仕組み作りと効果的な実践方法とは 服部 明彦 (本学事務部長)



学生募集のための研修 ① マナー研修



学生募集のための研修 ② PRポイント研修

地球温暖化対策
ワーキング
グループだより

**川崎エコ
プロジェクト**



**「eco検定」
を
ご存知ですか？**

eco 検定は、正式には「環境社会検定試験」といい、東京商工会議所が開催しています。毎年7月と12月に開催されており、県内では、岡山、倉敷、総社で受験できます。試験は、100点満点の70点以上で合格です。合格すれば、「エコピープル」として認定されます。受験に年齢制限はありません。

地球温暖化に伴う異常気象、地球の砂漠化などの環境問題は現代の重要な課題であり、持続可能な社会を作る方法について真剣に検討されています。日頃から環境問題に関心のある人はもちろん、あまり関心のない人も「生きていくための必要最低限の知識」を身につけるつもりで、「eco 検定」にチャレンジしてみてもはどうでしょう。選択式で難易度はあまり高くありませんが、幅広い知識が求められるようです。過去の問題の例を示しておきます。

塩素を含むプラスチックや生ゴミなどの廃棄物を、ある一定の範囲の温度で焼却すると塩素が化学反応を起こし、強い毒性のある物質が発生するといわれているが何か。
 (1)ホルムアルデヒド (2)ダイオキシン (3)光化学オキシダント (4)ベンゼン
 (正解：(2))
 (事務部長 服部 明彦)



中庄学区ソフトボール大会優勝

平成 28 年 11 月 6 日(日)に行われた中庄学区秋季ソフトボール大会において、本学のソフトボール部が優勝しました。平成 26 年の春季ソフトボール大会から、春、秋通じて6連覇を達成しました。予選から手に汗握るような接戦もありました。しかし、最後には王者の底力を発揮し、優勝することができました。部員の人数が多く、全員が出場できたわけではありませんが、試合に出た人もサポートしてくれた人も一致団結し、協力し合うことで活気のある楽しい大会になりました。

3年生はこの秋季大会を最後に引退しますが、後輩一同、これからも変わらず、楽しみながらも練習や試合に全力で取り組んでいきたいと思えます。

(臨床検査科 2年 ソフトボール部部长 下野 真志)

放射線技術科 犬伏 正幸 教授
第55回 日本核医学会賞を受賞






一般社団法人日本核医学会から、核医学の研究、診療、教育に多大な貢献をなした人を表彰する「日本核医学会賞」を、放射線技術科の犬伏 正幸教授が受賞しました。この賞は、日本核医学会員約 3,600 人の中から、毎年1人しか選ばれない核医学分野で最も荣誉ある賞とされています。授賞式は平成 28 年 11 月 5 日(土)に名古屋国際会議場で開催された第 56 回日本核医学会学術総会において行われました。

日本語に関する取り組み

短歌受賞報告

社会福祉法人 宮崎県社会福祉協議会主催の平成28年度「心豊かに歌う 全国ふれあい短歌大会」に、医療介護福祉科1、2年生合わせて43人が、介護への思いを短歌に託して応募しました。その結果、2年生の白瀬 あす香さんが「介護者の部」で佳作を受賞しました。

この短歌大会は、介護や支援を受ける高齢者、その家族、施設職員、ボランティアの方、介護の勉強をする学生を対象に短歌を募集し、介護や支援を受けている方々の生きがい作りや社会参加を進めることを目的としています。上記協議会企画の短歌集『老いて歌おう2016』（鉦脈社発行）には、白瀬さんの作品をはじめ、応募した学生全員の短歌43首が収められました。

白瀬さんは、在宅介護の場における利用者さんとの触れ合いの瞬間を、上手に作品にまとめています。



▲受賞者の白瀬 あす香さん

白瀬さんの作品

**在宅で訪問先のおばあちゃん
ビール片手に「彼氏おるんか」**

平成29年度 公開講座

第1回【医療介護福祉科】

講座名:「食べる楽しみを大切に
～低栄養を知り介護予防につなげよう～」

講師:河邊 聡子(本学医療介護福祉科准教授)
日時:6月17日(土) 10:00～11:30
会場:本学 体育館 101教室

第2回【看護科】

講座名:「突然の心臓発作や心停止!
あなたとあなたの大切な人を救うために」

講師:井上 千穂(本学看護科助教)
日時:8月19日(土) 10:00～11:30
会場:本学 体育館 101教室

第3回【臨床検査科】

講座名:「職場でよくみるメンタルヘルス不調とその対策」

講師:勝山 博信(川崎医科大学 公衆衛生学教授)
日時:10月21日(土) 14:00～15:30
会場:本学 体育館 102教室

オープンキャンパス

平成
29年

模擬講義や体験学習、在学生との懇親を通じて、本学の特色を、ぜひ体験してください! 事前の参加申し込みは不要です。保護者、教員の皆様もお気軽にお越しください。なお、詳細はホームページでお知らせします。

※3校合同オープンキャンパスは、本学と川崎医療福祉大学、川崎リハビリテーション学院の3校が共同開催します。3校合同開催時の受付は、川崎医療福祉大学で行います。

開催日時	備考
3月20日(月) 13:00～16:00	3校合同オープンキャンパス
5月20日(土) 13:00～16:00	本学オープンキャンパス
6月18日(日) 10:00～15:00(予定)	3校合同オープンキャンパス
7月23日(日) 10:00～15:00(予定)	3校合同オープンキャンパス
8月19日(土) 13:00～16:00	本学オープンキャンパス

なお、学校見学は随時受け付けています。その他詳細は、教務課までお問い合わせください。
【TEL】086-464-1033(受付/平日8:30～17:00、土曜8:30～12:00)

主要行事(4月～6月)

4月
3日 新入生オリエンテーション(～6)
// 臨床検査科3年臨床実習開始(～7/20)
4日 入学式
// 協会会総会(体育館11:00～)
// 放射線技術科3年臨床実習Ⅱ開始(～7/27)
6日 新入生健康診断
8日 川崎学園入学時合同研修
// 日本学生支援機構奨学金説明会
10日 看護科3年臨地実習開始(～9/25)

5月
10日 医療介護福祉科2年介護実習Ⅲ開始(毎週水曜)(～7/12)
13日 スポーツ大会
20日 本学オープンキャンパス
29日 医療保育科3年幼稚園実習開始(～6/25)

6月
1日 学園創立記念日
6日 医療介護福祉科1年介護実習Ⅰ開始(毎週火・水曜)(～7/5)
13日 医療保育科保育実習開始式
14日 医療保育科2年保育実習Ⅰ開始(～24)
17日 第1回公開講座
18日 3校合同オープンキャンパス

平成29年度 推薦入試後期結果

試験日:【A日程】11月25日(金)
【B日程】11月26日(土)
合格発表:12月2日(金)

	看護科		医療介護福祉科		計
	A	B	A	B	
募集人員(人)	15		10		25
志願者数(人)	39	43	0	0	82
志願倍率(倍)	5.5		-		3.3
合格者数(人)	35	38	0	0	73

平成29年度 センター利用入試前期結果

試験日:1月30日(月)・1月31日(火)
合格発表:2月7日(火)

	看護科		医療介護福祉科		計
	A	B	A	B	
募集人員(人)	3		2		5
志願者数(人)	20		1		21
志願倍率(倍)	6.7		0.5		4.2
合格者数(人)	3		0		3

平成29年度 一般入試前期結果

試験日:【A日程】1月30日(月)
【B日程】1月31日(火)
合格発表:2月7日(火)

	看護科		医療介護福祉科		計
	A	B	A	B	
募集人員(人)	30		13		43
志願者数(人)	72	49	2	1	124
志願倍率(倍)	4.0		0.2		2.9
合格者数(人)	35	24	2	1	62

平成30年度の入試概要は6月以降に本学ホームページで公表します。詳細については、入学試験要項をご確認ください。

入試に関する問合せ先

【教務課】TEL:086-464-1033
Eメール:nyushi@jc.kawasaki-m.ac.jp

川崎医療短期大学広報誌「若きいのち」(96号)

2017年3月発行

編集発行:広報誌編集委員会

河邊 聡子(医療介護福祉科・委員長)
見尾 久美恵(一般教養・副委員長)
重田 崇之(一般教養)
沖田 聖枝(看護科)
黒住 菜美(臨床検査科)
天野 貴司(放射線技術科)
重松 孝治(医療保育科)
桑田 俊明(庶務課)
松井 美奈(庶務課・書記)

写真協力:二葉写真館

印刷:友野印刷株式会社

皆さんからのご意見・ご要望をお待ちしております。

〒701-0194 倉敷市松島316

川崎医療短期大学 広報誌編集委員会

電話:086-464-1032(庶務課)

Eメール:kouhou@jc.kawasaki-m.ac.jp

ホームページ http://www.kawasaki-m.ac.jp/jc/

学生表彰

日本私立看護系大学協会	会長表彰	看護科	城田 夏奈
一般社団法人日本臨床衛生検査技師会(日臨技)	学生表彰	会長賞	臨床検査科 嶋村 沙耶
介護福祉士養成施設協会	会長賞	医療介護福祉科	光本 海峰
全国保育士養成協議会	会長表彰	医療保育科	池田 希美

編集後記

小型コンピュータや情報機器が、エアコンや自動車、血圧計など、様々なモノに組み込まれ、インターネットでつながる時代になりました。IoT(モノのインターネット)と呼ばれています。患者さんが自宅で測った血圧が、病院にいる医師のパソコン画面に表示されるなどは、その一例でしょう。人工知能(AI)は、将棋や囲碁で人間に勝っただけでなく、がんの正確な診断にも使われようとしています。このように複雑化・高度化する時代の中で、学生の皆さんには、自分を見失うことなく勉学にいそしんでほしいと思っています。

今回は、卒業する学生たちと本学の教員との対談を特集としました。学生たちには希望や期待を、先生方には医療人としての経験やアドバイスを語っていただきました。また、卒業生の担任の先生方には、お祝いのメッセージを書いいただきました。今号が卒業生の方々に対するはなむけとなれば幸いです。

最後になりましたが、ご多忙中にもかかわらず、快く記事をご執筆くださった皆様に深くお礼申し上げます。(見尾 久美恵)